
MERMAID

憐華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

M E R M A I D

【Nコード】

N 6 5 1 0 A

【作者名】

憐華

【あらすじ】

泊めてくれとしつこいため、少女を家に連れてきた柏木陸。しかしどこからどうみても普通の人間にしか見えないが…

名前決定

少女の住む人魚の国では、王位継承者は決められた年齢になると異国へ修行しなければならないらしい。それで選ばれたのが日本のこの町だったのだ。

少女があまりにしつこいため、いったん家に連れてきたら少女はそう説明してくれた。

「…でも信じらんねえよ。だって見た目普通の人間じゃん」

「そうですね。…じゃあちょっと人間っぽくない事してみますね」少女はそう言つて目を閉じ、なにかつぶやいた。

すると本棚に入っていた本が大きな音をたてて一斉に床に落ちた。

「！？なっ…！？」

「じゃあ戻すです」

少女がまた何かつぶやくと本はぴったりと本棚におさまった。

「これで信じてくれますですか？」

少女は振り向いて笑った。

「い…今の何…」

「今のは念力です。人間界にいる間は弱くなっちゃいますけど」
「……………」

マジで…??

今、本棚には誰も触れていない。じゃあ本当にこいつがやったってのか…?

「すげえな」

「ありがとうございます」

そう言つて笑つた少女の顔が可愛くて陸は照れ隠しに

「っと…な、名前なんて言うの？」

と話題を変えた。

「名前：？」

「おう。名前あるだろ」

なんとなく少女の顔が見れなくてそっぽを向いたまま話す。

「名前はないので決めて下さいです」

「は？なんで名前ないの？」

少女は困ったように笑いながら、

「あるですけど、

人間の喉じゃ発音出来ないんです。だからこっちで暮らす間の名前決めて下さいです」

と言った。

「俺が決めんのかよ」

「はい。お願いしますです」

んー…難しい…

「…じゃあ…お前人魚なんだろ？って事は海からきたんだよな。だからウミってどうか。…やっぱ安易すぎだよな…。んー…」

提案したあとになんだか恥ずかしくなっていそいで否定する。

「…ウミでいいですよ。可愛いですし」

「え？」

少女の発言に陸は戸惑った。

「いや、さっきの嘘だつて。適当に考えたやつだし」

「いいですよ。私海好きです。」

「…いいのか？」

「はい。名字は陸と同じ柏木がいいです」

こうして人魚のお姫様の名前が決定した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6510a/>

MERMAID

2011年1月2日02時30分発行